

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地			
高知リハビリテーション学院		昭和55年12月22日	大倉 三洋		〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 (電話) 088-850-2311			
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地			
学校法人高知学園		昭和26年3月13日	吉良 正人		〒780-0955 高知県高知市北端町100番地 (電話) 088-840-1111			
目的	本学院は、リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成することを目的とする。							
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士	
医療	専門課程		作業療法学科				平成17年文部科学省告示第170号	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技	
4年	昼間	137	54	57	26			
単位時間								
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数
160人		166人		8人		50人		58人
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表：有 ■成績評価の基準・方法 基準 80点以上：優 70～79点：良 60～69点：可 60点未満：不可			
長期休み	■春 期：3月21日～4月 3日 ■夏 期：8月 6日～9月30日 ■冬 期：12月21日～1月 7日			卒業・進級条件	進級条件：その年度に履修した授業科目の中で、未修得単位数が基準(1～2年：15単位 3年：10単位)以下の者 卒業条件：4年以上在学し所定の単位数(137単位)修得した者			
生徒指導	■クラス担任制：有 ■長期欠席者への指導等の対応 定期的に近況を確認し、保護者との面談を行い適切な指導を行っている			課外活動	■課外活動の種類 老人施設、身体障害者施設での介助ボランティア ■サークル活動：有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 社会医療法人近森会、高知大学医学部附属病院、医療法人恕泉会治久会、高知県立療育福祉センター、愛仁会リハビリテーション病院 ■就職率 ^{※1} ：100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} ：88% ■その他 (平成27年度卒業者に関する平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	作業療法士国家試験受験資格			
中途退学の現状	■中途退学者 6名 ■中退率 4% 平成27年4月1日時点において 在学者 164名 (平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において 在学者 158名 (平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 個人面談、三者面談、保護者面談会等を通じて適切な指導を行っている							
ホームページ	http://www.kochi-reha.ac.jp							

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界全体の動向や地域の医療・保健・福祉に関する知見を有する業界団体や職能団体、業務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職者等と共同し、教育課程を編成する。『リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成する』を目的とし、教育課程編成委員会と連携して、高度な職業教育を通じて自立した職業人育成を目指せるような教育課程を編成する。今後の社会保障政策の方向性や、新しく身に付けるべき知識やスキルを、実務に携わる専門家の意見を随時取り入れることによって、教育課程に反映し改善させていく。また、教育課程編成委員会の委員所属先以外の企業にも、求める人材や最近の動向についての情報を収集し、その結果を教育課程編成委員会において活用している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

教育課程編成委員会構成員は高知リハビリテーション学院教職員と企業関係者等の外部役員から成るものとし、互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
大倉 三洋	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
濱田 和範	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
栗山 裕司	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
平松真奈美	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
石川 裕治	高知リハビリテーション学院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	
近藤 眞一	特定医療法人防治会 きんろう病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	②
和田 譲	医療法人五月会 須崎くろしお病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③
杉本 徹	医療法人 恕泉会 リハビリテーション病院 すこやかな杜	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③
矢野 和美	社会医療法人 近森会 近森リハビリテーション病院	平成27年8月6日～ 平成29年3月31日	③

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(開催日時)

第1回 平成28年6月17日 18:30～20:30

第2回 平成28年9月16日 18:30～20:40

第3回 平成29年3月17日 18:30～20:30(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

前年度の委員会において、企業委員より学生の読解力の欠如、自立心・コミュニケーション能力不足、及び診療報酬に即した授業内容の展開など意見が出され、本年度第1回委員会でカリキュラムを変更し、平成29年度より実施する新カリキュラムの内容を報告した。具体的には、読解力の向上に「文章表現法」、コミュニケーション力不足には「コミュニケーション論」を導入するなど、基礎分野に新しい科目を設けた。診療報酬に即した授業については、「理学療法概論」「作業療法概論」「リハビリテーション概論」「言語聴覚障害学総論」の講義の中で教育しているが、今後、更に詳しく説明をしていくことを報告した。なお、他の授業についても、時代に即応した講義内容を展開し、現代社会の状況、セラピストの職域、活動状況を捉えていくようにした。

本年度第2回委員会では、企業等委員よりこれから求められる人材として、自立心や向上心を持っていること、自分が何を求められているか理解し、イメージできること、目的意識を持っていることなど意見が出された。1年次より施設での体験・見学を推進し、目で見て耳で聞くことにより、セラピストの仕事を実感させ、目的意識を向上させるよう、授業内容を検討、改善していくこととした。

現場が求めるスキルとして、患者・医師・看護師等からの情報収集後の分析、カルテへの要点記入など、学生時代身につけたことが現場で活かすことができるといった意見が述べられ、これについては、日常の講義や学校行事の中で自らが考え実践できるよう、今後も改善に努め、より密度の濃い教育内容へと繋げていくこととした。

<p>2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係</p>											
<p>(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 リハビリテーション技術者として必要な知識及び技術を修得させると共に、広い教養ある社会人を育成する』を座学だけでなく、実習や演習を通して身につけることによって、実践的かつ専門的なレベル・クォリティの高い人材を育成することを目指す。専門的かつ最新の動向の知識が必要な、専門科目については、業界に長年携わっている専門家の講師を招いて授業を行う。 臨床実習においては、全国にわたる病院・施設を実習受け入れ先として確保し、きめ細かい実習指導を受けることができるようにする。</p>											
<p>(2)実習・演習等における企業等との連携内容 実習前には学院の教職員と病院・施設の実習担当者が打合せを行い、実習内容や学生の学修成果の評価方法・指導方法等について検討する。実習期間中は、学生の実習実施状況や能力修得状況を定期的に把握できるよう相互に情報交換を行う。実習終了時には、実習の講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、学院が成績評価・単位認定を行う。</p>											
<p>(3)具体的な連携の例</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>臨床実習Ⅰ</td> <td>実践の場である実習施設にて指導者の指導と助言を得ながら、臨床場面において対象者に対する作業療法評価を行う。 実施した内容の記録、報告を行う。</td> <td>近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数55施設</td> </tr> <tr> <td>臨床実習Ⅱ</td> <td>実践の場である実習施設にて、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面において、対象者への作業療法評価、作業療法プログラムを行う。実施した内容の記録、報告を行う。チームにおける作業療法の役割を理解し、実践する。</td> <td>近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数66施設</td> </tr> </tbody> </table>			科目名	科目概要	連携企業等	臨床実習Ⅰ	実践の場である実習施設にて指導者の指導と助言を得ながら、臨床場面において対象者に対する作業療法評価を行う。 実施した内容の記録、報告を行う。	近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数55施設	臨床実習Ⅱ	実践の場である実習施設にて、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面において、対象者への作業療法評価、作業療法プログラムを行う。実施した内容の記録、報告を行う。チームにおける作業療法の役割を理解し、実践する。	近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数66施設
科目名	科目概要	連携企業等									
臨床実習Ⅰ	実践の場である実習施設にて指導者の指導と助言を得ながら、臨床場面において対象者に対する作業療法評価を行う。 実施した内容の記録、報告を行う。	近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数55施設									
臨床実習Ⅱ	実践の場である実習施設にて、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面において、対象者への作業療法評価、作業療法プログラムを行う。実施した内容の記録、報告を行う。チームにおける作業療法の役割を理解し、実践する。	近森リハビリテーション病院、いずみの病院、海辺の杜ホスピタル、高知鏡川病院、南国中央病院 等 総数66施設									
<p>3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係</p>											
<p>(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 教員を病院や施設、学会や研修会等に派遣し研修を行うことで、実践的かつ専門的な技術・技能の向上に努めさせており、これにより学生への指導へと活かしている。また、授業の進め方やシラバスの作成方法などについても随時見直しを行い、常に授業方法の改善を工夫する姿勢を教員に徹底させる。 学期毎に「学生による教員評価」を実施し、自己点検・評価委員長や学科長より個々の教員に結果を示しつつ、改善すべき点を指摘している。</p>											
<p>(2)研修等の実績</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等 第27回ハンドセラピィ学会学術集会(ハンドセラピィ学会学術集会)、第49回日本作業療法学会(一般財団法人日本作業療法士協会)に参加し、各専攻分野の研修を行った。</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等 臨床実習における関連知識や指導能力を修得・向上するための研修としては、臨床実習指導者協議会会議の場に、専門の講師を招いて学外で研修を実施した。内容は、他校より講師を招いて「臨床実習 -現代の学生の特徴をとらえた指導について-」というテーマで本学院教員や病院・施設実習担当者に対して講義し、知識の定着と発展を図り、臨床実習指導に対するスムーズな知識発展に本学院学生を指導できるよう取り組んだ。また、第28回教育研究大会・教員研究会(一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)、第42回理学療法士・作業療法士・言語療法士養成施設教員等講習会(厚生労働省・(公財)医療研修推進財団)に参加し、教授法や学生教育等について研鑽を積んだ。</p>											
<p>(3)研修等の計画</p> <p>①専攻分野における実務に関する研修等 専攻分野における実務に関する知識、技術、技能を修得・向上するための研修としては、研修規程に基づいて個々の教員に必要な研修を判別して計画的に受講させることを計画している。平成28年度は第50回日本作業療法学会(一般財団法人日本日本作業療法士協会)に参加。</p> <p>②指導力の修得・向上のための研修等 学生に対する指導力を修得・向上するための研修としては、第29回教育研究大会・教員研修会(一般社団法人全国リハビリテーション学校協会)に参加。</p>											

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価委員会の提言を踏まえ、学校運営、教育活動等のガイドラインの評価項目について、課題を検討・改善することで、学校の質の向上を図る。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材像
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

【学生募集について】

高知県内の高校生が減少する中で、県外からの入学生を一定割合確保することの必要性が指摘され、今後の募集活動及びその方法について更に検討することとした。

四国内の進学説明会への参加や四国内の高等学校に定期的に訪問する回数を増やし、受験生や保護者、高等学校の教員に対し、本学に興味を持ってもらうようアピールした。また、本学院オープンキャンパスに県外の受験生が参加した場合には、各学科の教員がその高等学校を訪問し、本学院の募集内容を説明するなど、きめ細やかに対応している

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
山本 孝利	特定医療法人防治会	平成27年9月15日～ 平成29年3月31日	業界団体 等役職者
元吉 明	特別養護老人ホームとさの里	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	卒業生
羽方 法男	高知リハビリテーション学院後援会	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	保護者
森澤 英世	有限会社森澤食品	平成27年9月10日～ 平成29年3月31日	地域住民
江渕土佐生	土佐市議会	平成27年9月8日～ 平成29年3月31日	地域の地方公共団体関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())・公表時期:平成28年9月28日

URL:<http://www.kochi-reha.ac.jp>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等と連携して学校運営を行っていくために当該企業等に対して、本校の現状について定期的に情報提供していくことを基本方針とし、年2回は意見交換会を行い情報共有や意見交換会を行っている

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	各学科等の教育
(3) 教職員	教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

ホームページ

URL:<http://www.kochi-reha.ac.jp>

授業科目等の概要

(専門課程作業療法学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			心理学	人間のかかわるあらゆる分野に接点をもつ心理学の基礎を学習する	1前	30	2	○			○			○	
○			情報科学	この授業ではコンピュータの基本操作と仕組みを学ぶと同時に、現在の情報社会での情報の活用力・実践力を身につけ、情報を科学的に理解することを目標とする。	1通	60	2		○		○			○	
	○		統計学	スライドを用い、基本統計量の定義、標本から得られる統計量から母集団の平均値、百分率などを推定する方法、集団間の関係を検定する手法を講義する。また、2変量の相関や多変量の統計分析の考え方についても触れる。基本的に教科書に沿って講義し、Excel関数を使って教科書の例題や演習問題を解く方法を実習する。これにより、専門分野の実験や調査によって得たデータを整理し、統計分析する手法を身につける。	1後	30	2	○			○				○
	○		人間工学	体の動きの原動力は、物理学での力学をもって説明することができる。生体力学理解のため、生体各部位での、かかる力の理論的数値の計算もしてみる。	1後	30	2	○			○				○
	○		生物学	生命現象を細胞レベルから解説するとともに、刺激と反応および動物の行動についてそのしくみから概説する。	1前	30	2	○			○				○
	○		教育学	理学療法士・作業療法士が教育学を学ぶ意義を理解し、行動とストレス、人を動かす時の動機づけの方法、高齢者教育、文化史についての知識を修得する。	1前	30	2	○			○				○
	○		社会学	過疎地域の状況について全国、高知県、市町村レベルでの高齢化状態や生活問題について、統計データや地域調査の結果を踏まえながら、わかりやすく説明する。また、地域福祉活動についても紹介する。	1後	30	2	○			○				○
	○		医事法	以下のテーマについて学習することで、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士の身分や業務が法令でどのように規制されているかを学ぶ。そして、診療補助を行う上に関係する医療の法律や制度をそして関連する保健・福祉に関する法律についても知る。	1前	30	2	○			○				○
	○		文学	日英米の文学作品を読み、文学の言葉の特徴を分析する。紹介する作品の中からいくつかを選び、受講生自身そのスタイルをまねて作文を試みる。	1後	30	2	○			○				○

○	哲学	現代社会の哲学的・倫理的問題を多角的に検討し、問題解決の可能性や道筋を考えていく。	1前	30	2	○			○			○
○	健康科学	近年、生活水準の向上、余暇時間の増加に伴い健康づくり、体力づくりに対する社会的関心は大きな高まりをみせている。このような状況下でリハビリテーションの領域も治療から予防へと拡大してきており、地域住民の健康管理、健康指導に関わる機会も多くなってきている。健康の維持増進のためには運動の・栄養・休養の三条件をバランスよく保つことが基本条件とされている。ここでは、主に健康と運動についての理解を深めるとともに、体力測定を通して、健康や体力の知識を深めることを目的とする。	1通	60	2		○		○		○	○
○	英語	英語会話の楽しさを知る。簡単かつ実践的な表現が出来るよう目指す。英語で考え、説明する力をつける。	1通	60	4	○			○			○
○	英会話	This is an elementary level course that aims to improve the students English comprehension and Speaking skills. (学生の英語への理解力や会話能力を上達させる目的の入門レベルコース) The activities are designed to build confidence in using the English language patterns and vocabulary learnt in high school. (基礎英語や高等学校で理解した単語を用いての文書作成) Lessons will include pair and small group activities and allow a chance for intercultural exchanges with the teacher. (講師との異文化交流を考慮した2人1組や少人数でのレッスン)	1通	60	4	○			○			○
○	ドイツ語	テキストを通して、ドイツ語の文章と文法を学ぶ。ドイツ語と英語は同系統の言語なので、両者の関連性を考察しつつ、授業を進める。授業ではまず最初にヨーロッパ語の系譜を説明する。次にアルファベットや発音の規則を学ぶ。次に、テキストを利用して、ドイツ文を読みながら、文法を学んでいく。1年間の授業を通して、初級テキストを辞書を利用して読解できる程度の実力を養成する。	1通	60	4	○			○			○
○	フランス語	仏語の講義を通して文化や考え方の違いを知ってもらう。	1通	60	4	○			○			○
○	中国語	聞く、話す、書く、読むという四技能をバランスよく基礎から学習し、簡単な日常会話や文書能力を習得する。また現代中国事情にもふれ、中国に対する理解と関心を深める。	1通	60	4	○			○			○

○		器官系の構造と機能	【解剖学】人体を構成する分子から細胞、組織、器官、個体の階層性の構成を理解し、生命現象にあずかる人体構造について感覚器系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系を構成する各器官の形態や構造およびその関連性について系統的に学習する。併せて解剖学用語等の医学用語についても修得する。 【生理学】人体のいろいろな器官系の機能についての基礎知識や概念について学習する。生体内の恒常性維持機構を学び、生体全体としての生命活動について学習する。	1通	60	4	○		○		○		
○		器官系の構造と機能演習	運動を行うと、心拍数の増加、呼吸機能の亢進、また体温の上昇といった現象が見られるように運動と器官系の機能は密接に関連している。本授業では実習を通して運動と器官系の機能・構造を理解すると共に、測定機器の特性及び操作方法について学習する。	1後	60	2		○	○		○		
○		運動系の構造と機能	骨、関節、靭帯、筋、神経の構造と役割・特性について知識を得る。運動による人体機能の変化や身体能力について基礎知識を深める。	1通	60	4	○		○		○		
○		運動系の構造と機能演習	人体の運動における筋活動を、体制化・可視化・触診を通じて学習する。	1通	60	2		○	○		○		
○		身体の機構と運動	人間の正常な身体運動の発生機序と、それに関わる身体構造と機能の関係を学習する。	1後	30	2	○		○		○		
○		身体の機構と運動演習	中枢神経の構造と機能について学び、運動の仕組みを理解する。	2前	30	1		○	○		○		
○		人間の発達	発達とは何か、何がどのように発達するのか、人間発達の理論的理解を深めるとともに、人間の発達のプロセスを発達段階にそって具体的に捉えていくことを本授業の目的とする。	1後	30	2	○		○		○		
○		心理臨床	臨床心理学の基礎理論を学習し、心理アセスメント及び介入技法について理解を深める。	1前	30	2	○		○		○		
○		病理学	病理学は疾病の原因、経過および結果を追求し、それらを体系化して理解することにより、疾病の本態を究明する学問であり、臨床に直接かかわりのある総合的な基礎科目である。病理学理論や各種疾病の病態の概要を理解し、基礎的な知識を深めるとともに、問題発見および解決能力を身につける。	1後	30	2	○		○		○		
○		一般臨床医学	医学及び医療の歴史、感染症とその対策、現代の新たな医療における技術革新と生命倫理、医学及び医療の臨床について学ぶ。さらに、人体の構造と機能の破綻によって発症する疾病の診断と治療、リハビリテーションの役割について学ぶ。	1前	30	2	○		○		○		

○		内科学	一般内科で扱う多くの疾患の症候や病態生理を理解することによって、将来臨床現場で医療スタッフとしてチームを組むための基礎知識を修得する。とくに内科疾患の診断・治療における流れを把握するために「ことば」を覚えてもらいたい。	2通	30	2	○		○	○	○
○		整形外科学	整形外科で取り扱う骨、関節、筋腱、神経などの組織に関する基礎知識を学び、整形外科領域の疾患について学ぶ。	2通	60	4	○		○		○
○		神経内科学	神経内科疾患を理解しそれに伴う神経症状を知り今後役に立てる。	2後	30	2	○		○		○
○		精神医学	精神医学の領域には、正しい知識を身につけ精神症者に対する理解を深める。	2通	60	4	○		○	○	○
○		小児科学	成長、発達段階にある小児の特性をふまえ、主にリハビリテーションに関連した小児疾患について理解を深める。	2後	30	2	○		○		○
○		老年学	老年期にある人間の身体的・精神的健康の問題と対策。	2後	30	2	○		○	○	○
○		リハビリテーション障害学	急性期、回復期、生活期の流れの中でリハビリテーションのあり方を知る	2通	60	2		○	○		○
○		社会福祉論	最近の制度・施策（特に、障害、高齢、児童家庭福祉）に対する具体的内容を学ぶ。	1後	30	2	○		○		○
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの歴史、概念、理念、対象と範囲について学ぶ。リハビリテーションの領域、障害論、技術論、関連職種について学ぶ。	1前	30	2	○		○		○
○		作業療法概論	障害体験や施設見学を通し、障害や作業療法について学ぶ。・作業療法士の役割や業務、社会的責任について学ぶ。	1通	60	2		○	○		○
○		基礎作業学	作業が人の生活・健康・文化とどのように関係しているか理解する。作業遂行における理論について理解する。作業指導の体験と作業分析の実施を通して、作業提供に必要な技能を修得する。	2通	60	2		○	○		○
○		作業学	作業療法における治療活動として、革細工技術を獲得する。革細工の作業分析を通じ、治療現場での有効性を検証し指導力を養う。対象者に応じた応用の方法について学ぶ。	2前	30	1		○	○		○
○		応用作業学	木工芸における、作業手順や使用物品の名称と使用方法の注意点について、体験的に学習する。陶芸の作業手順や使用物品の名称、技法について、体験的に学習する。	2前	30	1		○	○		○
○		作業療法基礎セミナー	グループで意見交換を行うことで考えを深めることを学ぶ。作業療法に関する文献を読んで理解する。作業療法の対象者への接し方について学ぶ。	2通	60	2		○	○		○
○		身体障害評価学	身体障害における作業療法の基盤として、評価の過程と重要性を知る必要がある。妥当な検査、測定の実施から、分析、統合、解釈に至る過程を本講義にて理解していただきたい。	2通	60	2		○	○		○

○		身体障害評価 手技	実技指導により適切な検査測定の実施技術を修得する。そのために評価学講義内容を十分に理解し実技を行っていく必要がある。また臨床場面を想定した演習も行う。	2 通	60	2		○	○	○				
○		精神障害評価 学	精神障害に対する作業療法を学び、実技・体験を通して基本的な評価技術を修得する。評価の目的と概要を知る。	2 通	90	3		○	○	○				
○		発達障害評価 学	人間が、どのように身体運動・精神面を発達させていきながら成長するのかを多面的に理解し、子どもの正常発達を立体的に捉えていく。発達障害児に対する評価について、実技を通して修得する。	2 前	30	1		○	○	○				
○		作業分析	作業分析の方法について理解する。	2 後	30	1		○	○	○				
○		動作解析	日動作が力学的に説明できるものであると学ぶ。動作解析の思考過程を明らかにする。疾患・症状別（特に片麻痺）の基本動作の特徴を知る。	2 後	30	1		○	○	○				
○		身体障害作業 治療学	講義内容をグループワークにて吟味し、課題内容を発表する。課題は臨床に則したものを提示し、下記の心身機能面障害に対する基礎技術の理解・体験を進める。臨床において実践するための準備的な授業を行う。	2 通	30	1		○	○	○				
○		中枢神経障害	脳血管障害による片麻痺について、主な臨床症状や障害への理解と評価から治療への作業療法の実践を学習する。前期は脳血管障害の障害像と評価について、講義を主体とした授業を行う。後期は各期の治療・アプローチについて、実技を中心とした演習授業を行う。	3 通	60	2		○	○	○				
○		脊髄障害	脊髄損傷を理解し、作業療法に必要な知識・技術について学習する。失調症・パーキンソン病等について理解し、作業療法に必要な知識・技術について学習する。	3 通	60	2		○	○	○				
○		運動器障害	疾患（RA）に対する知識を深め、作業療法の役割を理解する。機能解剖学に基づいたhand Therapyの基礎を修得する。Hand Therapyの対象疾患を理解する。	3 前	30	1		○	○	○				
○		高次脳機能障 害	高次神経障害とは何かを学ぶ。高次神経障害の評価と治療概念について学ぶ。高次脳機能障害の種類を知る。高次脳機能障害の検査の実際について学ぶ。脳卒中患者の臨床像の把握・評価と治療。	3 後	30	1		○	○	○				
○		義肢装具学	義肢・装具の概念を理解する。義肢・装具の実際を理解する。義肢・装具に関する分野での作業療法士の役割を理解する。	2 後	30	1		○	○	○				
○		自助具・福祉 機器	自助具・福祉機器について、目的と適合判定からそれらを作製する過程に必要な知識と技術を修得する。	3 後	30	1		○	○	○	○			

○		職業関連活動	職業リハビリテーションの目的と意義を理解し、当該分野における作業療法士の役割および職業リハに関する知識と技術を学ぶ。	3 後	30	1		○	○	○								
○		精神障害治療学	精神障害のリハビリテーションについて学ぶ。精神障害に対する作業療法の治療の流れについて学ぶ。	3 通	60	2		○	○	○	○							
○		精神障害各論	精神科リハビリテーションについて検討し、治療方法、評価方法について学ぶ。作業療法の理論、関連のある領域について学ぶ。	3 通	90	3		○	○	○	○							
○		発達障害作業治療学	発達障害児における症状や問題点を整理しながら、作業療法の治療理論とセラピストとしての具体的な役割を学ぶ。脳性麻痺の疾患を通して、人間のライフサイクル・生活をとらえた発達障害の理解と作業療法の実践を学ぶ。	3 前	60	2		○	○	○	○							
○		老年期障害作業治療学	高齢者の心身の状態と、高齢社会の現状を学ぶ。虚弱高齢者・障害高齢者・認知症高齢者への作業療法を学ぶ。	3 通	60	2		○	○	○								
	○	作業療法応用セミナー	研究法について、一連の流れを理解する。研究のテーマに必要な資料収集と整理、研究計画の立案、実施、結果概要のまとめを行う。	3 通	60	2		○	○	○								
	○	卒業研究	作業療法に関する勉学に総まとめとして、各自が研究計画に基づいた研究活動を実践し、最終的に論文としてまとめる。卒業研究発表会で発表する。	4 前	60	2		○	○	○								
○		地域リハビリテーション学	地域リハビリテーションの考え方とその実際について理解する。	3 前	30	2	○		○	○								
○		地域作業療法学	個人の生活におけるアプローチの実際について講義を通じて理解し、リハビリテーション及び作業療法が求められる地域支援の領域を知っていく。現在の情勢において作業療法士が求められる役割に答えるべく、思考を深めていただきたい。	3 後	30	1		○	○	○								
○		日常生活学	セルフケアにおける動作分析とそれぞれの活動の持つ意義を中心に実技を交えながら田尾泉的に学習する。	2 後	60	2		○	○	○								
○		生活環境論	作業療法士の知っておくべき生活環境について、主に、居住環境の調整を中心に学習する。	3 通	60	2		○	○	○								

○		臨床見学実習	実践の場である実習施設において、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面を見学し、対象者に対する作業療法の実際を学ぶ。合わせて、医療専門職としての態度やマナーを学ぶ。	2 前	90	2			○	○	○		
○		臨床短期実習	実践の場である実習施設にて指導者の指導と助言を得ながら、臨床場面において対象者に対する作業療法評価を行う。実施した内容の記録、報告を行う。	3 後	270	6			○	○	○		○
○		臨床実習	実践の場である実習施設にて、指導者の指導と助言を得ながら臨床場面において、対象者への作業療法評価、作業療法プログラムを行う。実施した内容の記録、報告を行う。チームにおける作業療法の役割を理解し、実践する。	4 前	810	18			○	○	○		○
合計				科目	単位時間(137 単位)								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：4年以上在学し、別表2（2）に規定した単位（137単位3690時間以上）を取得しなければならない。		1学年の学期区分	前後期
履修方法：講義・演習・実習		1学期の授業期間	18週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。